

2016 人間生活工学ワークショップ 「生活者起点で生活安全を考える」

日時 2016.11.11 (金) 13:30~17:00 (13:00 より受付開始)

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 55 号館 2 階第 3 会議室 (東京都新宿区大久保 3-4-1)

主催：早稲田大学創造理工学部人間生活工学研究室・(一社)人間生活工学研究センター (HQL)

共催：日本人間工学会安全人間工学研究部会

【開催の狙い】

安全・安心な消費生活を実現するためには、製品自体の安全性の向上は不可欠ですが、一方で生活者自身の責務も、より一層、重要な要素となってきています。これは安全な製品を選択し製品を正しく使う知識や意識の高揚、生活の中に潜む危険要素に対する感受性の構築、さらには、自分の身は自分で守る生活安全意識、生活文化の醸成などから重畳的に構成されていると考えられ、企業からの情報提供、行政や教育機関からの働きかけなど、さまざまなルートにより推進することが望まれると思われまます。今回のワークショップでは、「生活安全」を生活者起点に実現するための考え方やアプローチ、実践例について、行政、教育、企業の各界からご講演をいただき、それを受けて広く意見交換を行い、より一層の生活安全について考察を深めたいと思います。

(ナビゲート：早稲田大学創造理工学部 経営システム工学科 小松原明哲教授)

消費者庁の消費者事故情報の収集と消費者安全調査委員会の取組

米山真梨子先生 消費者庁 消費者安全課事故調査室 課長補佐

消費者庁では、消費者事故の情報を一元的に集約し、その情報に基づいて事業者に対しても消費者に対しても、事故防止のための施策を実施しています。消費者安全調査委員会は、消費者事故等に関する調査を行うために法律で定められた機関です。その活動を、事故調査報告の例も踏まえてご紹介します。

<http://www.caa.go.jp/> 消費者庁

目から鱗、アメリカ式子供への防火教育

長谷川祐子先生 リスクウォッチ代表・元在日米軍海軍司令部地域統合消防隊予防課長

私は在日米海軍消防隊で 20 数年勤め、米海軍軍人さんやご家族に安全教育をしてきました。そこで学んだ米国の子供防火教育が目から鱗でした。大人が守る、先生が守るとの合言葉で、子供たちに自分の命は自分で守ると教えることがなかった日本では大人がいなくとも、子供たちは火災の中、どの様に逃げていけばよいか理解していません。米国では大人がいなくとも、子供たちに情報と知恵と技術を与えて教育していれば危機から自分で脱することができると教えます。そのプログラムをお話しします。

<http://www.risk-watch.net/> リスクウォッチ

「製品安全コンサルティングの現場で感じること」

宇田川 将生先生 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社

製品安全・環境本部 製品安全マネジメント第二ユニット ユニットリーダー

製品安全の取組や活動を行っているものの、「取組の効果があがらない」「取組が浸透しない」などの悩みを企業の担当者様からよくお聞きします。コンサルティングの現場で感じる“そんな組織が抱える課題や、その課題を打破するための取組”，そして，“製品安全の取組を進める上で大切であると考えられる視点”などをご紹介します。

<http://www.tokiorisk.co.jp/> 東京海上日動リスクコンサルティング

【ご案内】

どなたでも参加できますが、事前にお申し込み下さい。

会場の都合により先着50名まで受け付けます。

申し込み先： 人間生活工学研究センター東京事務所 kouza@hql.jp (FAX : 03-5405-2143)

氏名と所属・連絡先

(HQL 会員，または日本人間工学会安全人間工学研究部会員にはその旨を明記して下さい。)

参加費： 2000 円 (HQL 会員・日本人間工学会安全人間工学研究部会員は1000 円)。

当日受付にて支払い。

東京メトロ副都心線「西早稲田」駅下車が極めて便利です(キャンパスは駅に直結)。

駅(早大理工方面出口)左手真上の校舎が会場となります(会場は 55 号館 2 階)。